共同災害看護学専攻　博士課程
（DNGL:災害看護グローバルリーダー養成プログラム）
Disaster Nursing Global Leader Degree Program

2023年度　開講科目シラバス

高知県立大学 University of Kochi　兵庫県立大学 UNIVERSITY OF HYOGO　TMDU 東京医科歯科大学　千葉大学 CHIBA UNIVERSITY　日本赤十字看護大学

目次　Content

	教育課程等の概要(共同学科等)「2014年度～2018年度入学生適応」	1
	教育課程等の概要(共同学科等)「2019年度以降入学生適応」	2
	2023年度　共同災害看護学専攻　開講科目一覧	3
	災害看護学の基盤を支える科目群	
1103	危機管理論	4
1104	環境防災学Ⅰ	5
1105	環境防災学Ⅱ	6
1106	グローバルヘルス	7
1107	災害法制度と政策論	8
1108	専門職連携実践論	9
1109	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	11
1110	災害医療学	13
1111	災害心理学	15
1112	災害と文化	16
1113	災害社会福祉学	17
1114	Professional writing	18
1115	Proposal writing（Research proposal writing skill）	20
1116	Program writing （Program proposal writing skill）	22
	災害看護学の専門科目群	
2206	災害看護グローバルコーディネーション論	24
2207	災害看護リーダシップ・管理論	26
2208	災害看護倫理	27
3209	災害看護理論構築	29
1210	インターンシップⅠ	31
1211	インターンシップⅡ	33
	インデペンデント学修科目群	
1301	災害看護ゼミナールA	35
1302	災害看護ゼミナールB	36
1303	災害看護ゼミナールC	38
1304	災害看護ゼミナールD	39
1305	災害看護ゼミナールE	40
1306	インデペンデントスタディⅠ	
1307	インデペンデントスタディⅡ	
1308	インデペンデントスタディⅢ	41
1309	インデペンデントスタディⅣ	
1310	インデペンデントスタディⅤ	
	災害看護学研究支援科目群	
2402	実践課題研究	43
3403	災害看護研究デベロップメント	44
3404	博士論文	46

教育課程等の概要（共同学科等）

（共同災害看護学専攻（博士課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	備考
看護学の学問基盤に関する科目群	101	看護研究方法	1前	高知県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	102	理論看護学Ⅰ	1前	千葉大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	301	理論看護学Ⅱ	3前	高知県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	110	看護倫理	1後	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む
	111	看護情報統計学	1後	東京医科歯科大学		2		○			オムニバス／メディアを含む
	201	保健学的・疫学的研究法	2前	千葉大学		2		○			メディアを含む
	202	看護研究方法論Ⅰ(国際比較研究)	2前	東京医科歯科大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	112	看護研究方法論Ⅱ(エスノグラフィー)	1後	日本赤十字看護大学		1		○			メディアを含む
	203	看護研究方法論Ⅲ(ケーススタディ・アクションリサーチ)	2前	千葉大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	113	看護研究方法論Ⅳ(グランデッドセオリー)	1後	東京医科歯科大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	114	看護研究方法論Ⅴ(現象学的研究方法)	1後	高知県立大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	204	看護研究方法論Ⅵ(介入研究・尺度開発含)	2前	兵庫県立大学		1		○			メディアを含む
		小計(12科目)	－		6	12	0	－			－
災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群	205	危機管理論＊	2前	兵庫県立大学		2		○			オムニバス／メディアを含む
	115	環境防災学＊	1後	千葉大学／高知県立大学		2		○			オムニバス／メディアを含む
	211	グローバルヘルスと政策＊	2後	東京医科歯科大学		2		○			オムニバス／メディアを含む
	103	専門職連携実践論＊	1前	千葉大学		2		○			メディアを含む
	104	災害医療学＊	1前	日本赤十字看護大学		2		○			オムニバス／メディアを含む
	105	災害情報学＊	1前	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む
	106	災害心理学＊	1前	兵庫県立大学		2		○			メディアを含む
	107	災害と文化＊	1前	千葉大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	212	災害社会学＊	2後	高知県立大学		1		○			メディアを含む
	206	災害福祉学＊	2前	高知県立大学		1		○			メディアを含む
	207	Professional writing＊	2前	高知県立大学		1			○		オムニバス／メディアを含む
	208	Proposal writing（Research proposal writing skill）＊	2前	東京医科歯科大学		1			○		オムニバス／メディアを含む
	305	Program writing（Program proposal writing skill）＊	3後	兵庫県立大学		1			○		メディアを含む
		小計(13科目)	－		0	20	0	－			－
災害看護学に関する科目群	108	災害看護活動論Ⅰ	1前	東京医科歯科大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	109	災害看護活動論Ⅱ	1前	日本赤十字看護大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	116	災害看護活動論Ⅲ	1後	千葉大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
	302	災害看護学特論	3前	兵庫県立大学	2			○			メディアを含む
	303	災害看護グローバルコーディネーション論＊	3前	日本赤十字看護大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	306	災害国際活動論＊	3後	日本赤十字看護大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	307	災害看護管理・指揮論＊	3後	高知県立大学		1		○			オムニバス／メディアを含む
	308	災害看護倫理	3後	兵庫県立大学	1				○		オムニバス／メディアを含む
	309	災害看護理論構築	3後	高知県立大学／兵庫県立大学	2			○			オムニバス／メディアを含む
		小計(9科目)	－		11	3	0	－			－
災害看護学演習	117	災害看護活動論演習Ⅰ	1後	東京医科歯科大学	2				○		オムニバス／メディア含む／集中
	118	災害看護活動論演習Ⅱ	1後	兵庫県立大学	2				○		メディアを含む／集中
	119	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	1後	千葉大学		2			○		オムニバス／メディア含む／集中
	209	災害看護グローバルリーダー演習	2前	日本赤十字看護大学		2			○		オムニバス／メディアを含む
	120	インディペンデントスタディ(演習)A	1後	高知県立大学		1			○		
	121	インディペンデントスタディ(演習)B	1後	兵庫県立大学		1			○		
	122	インディペンデントスタディ(演習)C	1後	東京医科歯科大学		1			○		
	123	インディペンデントスタディ(演習)D	1後	千葉大学		1			○		
	124	インディペンデントスタディ(演習)E	1後	日本赤十字看護大学		1			○		
		小計(9科目)	－		4	9	0	－			－
災害看護学実習	210	災害看護学実習Ⅰ	2前	兵庫県立大学	2					○	集中
	401	災害看護学実習Ⅱ	4前	日本赤十字看護大学	2					○	集中
	402	インディペンデントスタディ(実習)A	4前	高知県立大学		1				○	集中
	403	インディペンデントスタディ(実習)B	4前	兵庫県立大学		1				○	集中
	404	インディペンデントスタディ(実習)C	4前	東京医科歯科大学		1				○	集中
	405	インディペンデントスタディ(実習)D	4前	千葉大学		1				○	集中
	406	インディペンデントスタディ(実習)E	4前	日本赤十字看護大学		1				○	集中
		小計(7科目)	－		4	5	0	－			－
災害看護学に関する研究支援科目群	213	実践課題レポート	2後	5大学(共同指導)	5				○		各大学1単位／メディアを含む
	304	災害看護研究デベロップメント	3前	5大学(共同指導)	5				○		各大学1単位／メディアを含む
	501	博士論文	5前	5大学(共同指導)	5				○		各大学1単位／メディアを含む
		小計(3科目)	－		15	0	0	－			－
合計（53科目）			－		40	49	0	－			－

学位又は称号	学位又は学科の分野
博士（看護学）	保健衛生学関係

卒業要件及び履修方法

標準修業年限の５年以上在籍し，修了要件５０単位以上の単位を修得した者で必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。

修了要件５０単位のうち，４０単位は必修であり、１０単位は選択科目または選択必修科目から修得すること。選択必修科目は「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」から６単位、「災害看護学に関する科目群」から２単位を修得すること。

また，それぞれの構成大学において１０単位以上を修得すること。

＊は選択必修科目

開設大学	開講単位数（必修）
高知県立大学	16(8)
兵庫県立大学	23(11)
東京医科歯科大学	16(7)
千葉大学	18(7)
日本赤十字看護大学	16(7)

授業期間等
１学年の学期区分　２期
１学期の授業期間　１６週（試験期間含）
１時限の授業時間　９０分

教 育 課 程 等 の 概 要（共同学科等）

（共同災害看護学専攻（博士課程））

科目区分		授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実習	隔年	備考
災害看護学の基盤を支える科目群	1101	看護研究	1前	東京医科歯科大学		2		○				
	1102	理論看護学	1集	千葉大学		1		○				看護学専攻との共同開講 8～9月に集中　対面開講
	1103	危機管理論	1･2･3前	兵庫県立大学		1		○			偶数	一部を減災復興政策研究科・博士前期課程と合同開講
	1104	環境防災学Ⅰ	1･2･3後	高知県立大学		1		○			偶数	
	1105	環境防災学Ⅱ	1･2･3後	千葉大学		1		○			奇数	
	1106	グローバルヘルス	1･2･3後	東京医科歯科大学		1		○			奇数	
	1107	災害法制度と政策論	1･2･3後	東京医科歯科大学		1		○			偶数	
	1108	専門職連携実践論	1･2･3前	千葉大学		1		○				8～9月集中　看護学専攻との共同開講 ※同時双方向型メディア授業
	1109	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	1･2･3集	千葉大学		1			○		奇数	2～3月集中　※同時双方向型メディア授業
	1110	災害医療学	1･2･3前	日本赤十字看護大学		2		○			偶数	
	1111	災害心理学	1･2･3前	兵庫県立大学		1		○			偶数	
	1112	災害と文化	1･2･3前	千葉大学		1		○			奇数	
	1113	災害社会福祉学	1･2･3後	高知県立大学		1		○			偶数	前期集中
	1114	Professional writing	1･2･3前	高知県立大学		1			○		奇数	
	1115	Proposal writing （Research proposal writing skill）	1･2･3前	東京医科歯科大学		1			○		偶数	保健衛生学研究科「国際看護研究方法論」と共同開講
	1116	Program writing （Program proposal writing skill）	1･2･3後	兵庫県立大学		1			○		偶数	
		小計(16科目)	－		0	18	0	－				
災害看護学の専門科目群	1201	災害看護学総論	1前	兵庫県立大学		2		○				
	1202	災害看護活動論Ⅰ(急性期)	1前	東京医科歯科大学		2		○				
	1203	災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)	1前	日本赤十字看護大学		2		○				
	1204	災害看護活動論Ⅲ(復旧･復興)	1後	千葉大学		2		○				
	1205	災害看護活動論Ⅳ(備え)	1後	高知県立大学		2		○				
	2206	災害看護グローバルコーディネーション論	2集	日本赤十字看護大学		2		○				
	2207	災害看護リーダーシップ・管理論	2前	高知県立大学		2		○				
	2208	災害看護倫理	2前	兵庫県立大学		1		○				
	3209	災害看護理論構築	3前	兵庫県立大学		2		○				
	1210	インターンシップⅠ　＊	1･2･3･4･5通	5大学(共同指導)		5				○		
	1211	インターンシップⅡ　＊	1･2･3･4･5通	5大学(共同指導)		5				○		
		小計(11科目)	－		0	27	0	－				
インデペンデント学修科目群	1301	災害看護ゼミナールA	1･2･3	高知県立大学		2		○				
	1302	災害看護ゼミナールB	1･2･3	兵庫県立大学		2		○				
	1303	災害看護ゼミナールC	1･2･3	東京医科歯科大学		2		○				
	1304	災害看護ゼミナールD	1･2･3	千葉大学		2		○				
	1305	災害看護ゼミナールE	1･2･3	日本赤十字看護大学		2		○				
	1306	インデペンデントスタディⅠ	1･2･3･4･5	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学		1			○			
	1307	インデペンデントスタディⅡ	1･2･3･4･5			1			○			
	1308	インデペンデントスタディⅢ	1･2･3･4･5			1			○			
	1309	インデペンデントスタディⅣ	1･2･3･4･5			1			○			
	1310	インデペンデントスタディⅤ	1･2･3･4･5			1			○			
		小計(10科目)	－		0	15	0	－				
災害看護学研究支援科目群	1401	災害看護研究ゼミナール	1後	5大学(共同指導)		5		○				
	2402	実践課題研究	2通	5大学(共同指導)	5				○			
	3403	災害看護研究デベロップメント	3前	5大学(共同指導)	5				○			
	3404	博士論文	3～5	5大学(共同指導)	5				○			
		小計(4科目)	－		15	5	0	－				－
合計（41科目）			－		15	65	0	－				－

学位又は称号	博士（看護学）

学位又は学科の分野	保健衛生学関係

卒業要件及び履修方法

標準修業年限の5年以上在籍し、修了要件50単位以上の単位を修得した者で必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。

修了要件50単位のうち、「災害看護学の基盤となる科目群」から6単位以上、「災害看護学の専門科目群」から10単位以上を修得し、かつ「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」のいずれか1科目以上を履修すること。
また、それぞれの構成大学において10単位以上を修得すること。
*は選択必修科目

開設大学	開講単位数(必修)
高知県立大学	15 (3)
兵庫県立大学	16 (3)
東京医科歯科大学	15 (3)
千葉大学	15 (3)
日本赤十字看護大学	14 (3)

授業期間等

1学年の学期区分　2期

1学期の授業期間　16週（試験期間含）

1時限の授業時間　90分

※インデペンデントスタディの単位は含まない

2023年度　共同災害看護学専攻　開講科目一覧

2023.4.1

コード	科目名	配当年次	担当大学	単位数	時期	必修	隔年開講	備考
1103	危機管理論	1・2・3	兵庫県立大学	1	前		偶数年	
1104	環境防災学Ⅰ	1・2・3	高知県立大学	1	後		偶数年	
1105	環境防災学Ⅱ	1・2・3	千葉大学	1	後		奇数年	
1106	グローバルヘルス	1・2・3	東京医科歯科大学	1	後		奇数年	
1107	災害法制度と政策論	1・2・3	東京医科歯科大学	1	後		偶数年	
1108	専門職連携実践論	1・2・3	千葉大学	1	前期集中			8～9月集中 看護学専攻と共同 （※同時双方向メディア）
1109	災害時専門職連携演習 （災害IP演習）	1・2・3	千葉大学	1	後期集中		奇数年	2月～3月集中 （※同時双方向メディア）
1110	災害医療学	1・2・3	日本赤十字看護大学	2	前		偶数年	
1111	災害心理学	1・2・3	兵庫県立大学	1	前		偶数年	
1112	災害と文化	1・2・3	千葉大学	1	前		奇数年	一部集中（※TV・対面授業）
1113	災害社会福祉学	1・2・3	高知県立大学	1	後		偶数年	
1114	Professional writing	1・2・3	高知県立大学	1	前		奇数年	
1115	Proposal writing	1・2・3	東京医科歯科大学	1	後		偶数年	
1116	Program writing	1・2・3	兵庫県立大学	1	後		偶数年	
2206	災害看護グローバルコーディネーション論	2	日本赤十字看護大学	2	集中			
2207	災害看護リーダーシップ・管理論	2	高知県立大学	2	前			
2208	災害看護倫理	2	兵庫県立大学	1	前			旧カリ学生は必修
3209	災害看護理論構築	3	兵庫県立大学	2	前			
1210	インターンシップⅠ	1・2・3・4・5	5大学（共同）	5	通	いずれか1科目以上選択必修		
1211	インターンシップⅡ	1・2・3・4・5	5大学（共同）	5	通			
1301	災害看護ゼミナールA	1・2・3	高知県立大学	2	後			日時は受講者と相談可
1302	災害看護ゼミナールB	1・2・3	兵庫県立大学	2	後			
1303	災害看護ゼミナールC	1・2・3	東京医科歯科大学	2	通			
1304	災害看護ゼミナールD	1・2・3	千葉大学	2	後			
1305	災害看護ゼミナールE	1・2・3	日本赤十字看護大学	2	後			
1306	インデペンデントスタディⅠ	1・2・3・4・5	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学	1				
1307	インデペンデントスタディⅡ	1・2・3・4・5		1				
1308	インデペンデントスタディⅢ	1・2・3・4・5		1				
1309	インデペンデントスタディⅣ	1・2・3・4・5		1				
1310	インデペンデントスタディⅤ	1・2・3・4・5		1				
2402	実践課題研究	2	5大学（共同）	5	通	必修		
3403	災害看護研究デベロップメント	3	5大学（共同）	5	前	必修		
3404	博士論文	3・4・5	5大学（共同）	5		必修		

開講科目数25

R5年度開講しない科目（隔年開講）

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	危機管理論 Crisis Management Theory	必修の区分	選択
授業コード	1103	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	紅谷昇平	所属	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	beni@drg.u-hyogo.ac.jp

講義目的及び到達目標	【【講義目的】 危機管理や災害対応の基本理論、及び災害時の対応課題と危機管理手法について、日本で発生した災害における自治体等の対応事例を通して学習する。 【到達目標】 本講義の終了時には、危機および危機管理の基本的な理論や事例・教訓を理解し、社会的な危機である災害に効果的に対応するための組織体制やマネジメント手法、危機管理プロセス等について修得し、実践ができることを目指す。
講義内容・授業計画	【講義内容】 日本の自治対応の災害対応事例やアメリカの ICS(Incident Command System)などの災害対応・危機管理の枠組みを参考にしながら、危機管理・災害対応に求められる組織形態、指揮命令系統、災害対策本部の組織・運営方法、他組織との連携などのあり方について学ぶ。さらに、災害対応業務に備えて平時に策定すべき防災計画の役割や訓練手法等についても取り上げる。 【授業計画】 1. 4/12(火)9:00-10:30:イントロダクション:リスク、危機、災害、危機管理等の用語・概念 2. 4/19(火)10:40-12:10:災害対応のリーダーシップと人材育成★ 3. 4/26(火)10:40-12:10:災害対応業務の特殊性と災害対応課題★ 4. 5/10(火)10:40-12:10:自治体の応急対応と災害対策本部★ 5. 5/17(火)10:40-12:10:危機管理の空間★ 6. 5/24(火)9:00-10:30:危機管理の組織運営の原則とICS 7. 5/24(火)10:40-12:10:災害対応の計画・マニュアル★ 8. 5/31(火)9:00-10:30:リスクマネジメントの原則とまとめ 注:★のついた授業は、兵庫県立大学大学院・減災復興政策研究科・博士前期課程「減災復興自治体行政論」と合同で実施する。
テキスト	なし
参考文献	講義中に紹介する。
成績評価	確認テスト 50%、課題レポート 50%
履修上の注意・履修要件	授業は、全てオンライン（Zoom を予定）で実施する。
備考	なし

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	環境防災学 I Environmental Disaster Studies I	必修の区分	選択
授業コード	1104	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	隔年後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	大村　誠	所属	高知県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	omura@cc.u-kochi.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】地球科学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、自助・共助など、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。 【到達目標】災害発生と自然・都市環境との関連を学び、自助・共助・地域減災の方法、災害からの復興計画の考え方や実践の方法について提案できる。
講義内容・授業計画	【ねらい】 主に自然災害を中心に、災害を引き起こす外力であるハザードの性質を理解し、それを災害（ディザスター）にしないための経験的知識・自助・共助の方法を習得する。 【学習内容】(8 回) 近未来に災害看護が直面する自然災害の事例として、主に日本の都市の環境に着目し、地震・津波災害（建物の崩壊、火災、地盤災害ほか）さらに、火山災害、気象災害、水害、土砂災害などの事例も学ぶ。さらに、複数種類の災害が同時に発生する南海トラフ巨大地震と首都直下地震に対して、少子高齢化が進む社会での対応を考察する。
テキスト	必要に応じて WEB で資料を公開。
参考文献	鎌田浩毅（監修・著).せまりくる「天災」とどう向き合うか、ミネルヴァ書房、2015.　ほか　授業の中で紹介する。
成績評価	授業参加度、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意･履修要件	災害の映像資料の使用に配慮が必要な受講生は申し出ること。
備考	使用言語と資料記載は日本語

授業科目名	環境防災学Ⅱ Environmental Disaster Studies Ⅱ	必修の区分	選択
授業コード	1105	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	近藤昭彦	所属	千葉大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	kondoh@faculty.chiba-u.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】地理学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。 【到達目標】災害発生と自然・社会との関連を学び、地域固有の減災の方法、災害からの復興計画の考え方や実践の方法について提案できる。
講義内容・授業計画	【ねらい】 主に自然災害を中心に、災害を引き起こす外力であるハザード（誘因）の性質を理解し、それを災害（ディザスター）にしないための経験的知識を習得する。 【学習内容】 （近藤昭彦／８回）地震、豪雨等のハザード（誘因）と地域ごとに異なる土地の性質（素因）に関する基礎的知識に基づき、災害発生の要因を理解することにより、発災時の行動のあり方、復興計画に対する指針、平穏時における備え、等について過去の災害事例に基づき講義を行う。
テキスト	必要に応じて WEB で資料を公開。
参考文献	授業時に指示。
成績評価	授業参加度、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	なし
備考	なし

授業科目名	グローバルヘルス Global Health	必修の区分	選択
授業コード	1106	開講年次	1-3
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木　吉子	所属	東京医科歯科大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp

講義目的及び到達目標	【授業目的】 日本国内および世界の健康課題を理解し、俯瞰的な視点で解決策を検討し提案する力を獲得する。 【到達目標】 ・日本国内および世界の健康課題を理解することができる。 ・課題に対して、俯瞰的な視点で解決策を検討し提案することができる。
講義内容・授業計画	【授業内容】 第１回　　ガイダンス 第２・３回　グローバルヘルス課題への取り組み①（未定） 第４・５回　グローバルヘルス課題への取り組み②（未定） 第６・７回　グローバルヘルス課題への取り組み③（未定） 第８回　　ディスカッション
テキスト	特になし
参考文献	特になし
成績評価	毎回の講義での参加状況 50％（積極的な質問、議論への参加を評価する） 毎回の講義後のレポート 50％
履修上の注意･履修要件	自発的、積極的な質問・議論を求める。
備考	特になし

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	災害法制度と政策論 Disaster related law and politics	必修の区分	選択
授業コード	1107	開講年次	1-3
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木吉子、柏木聖代	所属	東京医科歯科大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイント（随時）	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	【授業目的】 日本の医療政策・制度および災害関連の法律を理解し、災害対策もしくは対応上の議題の解決策の提案ができる能力を獲得する。 【到達目標】 日本の医療政策・制度について理解する。 災害関連の法律を理解する。 災害対策・対応を解決に向けた政策提言のための具体的方策について検討する。		
講義内容・授業計画	【授業内容】 第１・２回　ガイダンス、日本の看護政策（佐々木吉子・柏木聖代） 第３・４回　日本の医療政策①（調整中） 第５・６回　日本の医療政策②（調整中） 第７回　　災害に関連する法律（調整中） 第８回　　政策提言に向けた発表と討論（柏木聖代・佐々木吉子）		
テキスト	指定なし		
参考文献	指定なし		
成績評価	講義での参加姿勢（積極的な質問、議論への参加を評価する）60% 事後レポート 40%		
履修上の注意・履修要件	受け身で講義を聴講するのではなく、自発的、積極的な質問・議論を求めます。		
備考	特になし		

授業科目名	専門職連携実践論 Interprofessional Collaboration and Practice Theory	必修の区分	選択
授業コード	1108	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	オンライン授業
講師名	酒井 郁子 **井出 成美** 飯野理恵 臼井いづみ 孫　佳茹 （新任者）	所属	千葉大学大学院看護学研究院
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所		連絡先	idenaru@chiba-u.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】医療保健福祉介護の実践現場において、多職種間の協働的実践の方略、課題、解決法について検討・改善する力を養う。 【到達目標】 ①専門職間の連携協働および連携学習に価値を置き、他職種の意見や見方を尊重する態度を理解し実践できる ②各専門職の役割と関係、協働が求められている背景について国レベルから地域レベルまで理解できる。 ③協働を改善するための戦略や理論モデルを理解できる ④職種間、組織間において改善の必要性がある協働実践を判別し、改善策を企画実施するためのスキルを理解し実践できる。 ⑤多機関との連携協働に関する知識、および目的に応じた実行および評価のためのスキルを理解できる
講義内容・授業計画	【概要】他の専門分野の知識や技術を尊重し、協働を図りながら、新たな価値体系や実践の創造のできる基礎的理論や知識の習得と活用を目指し、専門職連携実践に必要な基本的な知識と理論を理解したうえで、連携に必要な態度と技術を論述し、自己および自組織の連携協働を評価する方法を論述する。 【学習内容】オンライン授業で実施する （オンデマンド） １）講義①「専門職連携実践の基礎的知識」動画視聴 ２）視聴覚教材を視聴し、事前課題を行う。教材については、Moodle を通じて指示する。 （同時双方向型オンライン授業） 第1～３回　8月24日（Ⅲ～Ⅴ） １）オリエンテーション　授業全体の進め方と到達目標を共通理解する ２）講義②「チームについて」 チームとは何か、チームワークとは何か、チームの形成過程とはについて概説する。 ３）講義③「対立の解決をめざしたアプローチ」 対立とは何か、対立の解決を目指した戦略について概説する。

	４）講義④「多職種連携のマネジメント」 組織における多職種連携を推進するマネジメントについて概説する。 第 4～6 回　8 月 25 日（Ⅲ～Ⅴ） １）演習①「効果的な情報伝達方法」 ISBAR というスキルを使って効果的な情報伝達方法についてワークを通して学ぶ。 ２）演習②「カンファレンスでの基本動作」 模擬カンファレンスのワークを通じて、カンファレンスでの基本動作を学び、合意形成や協働意思決定について体験する。
テキスト	講義開始前に文献リストを提示する。
参考文献	講義開始前に文献リストを提示する。
成績評価	授業への参加 60%(積極的な意見交換、チームパフォーマンスへの貢献を評価する)。 最終レポート 40%（レポート課題：自己の専門職連携実践能力の自己評価と今後の課題)
履修上の注意・履修要件	災害時専門職連携演習（奇数年開講）の履修希望者は本科目を履修することが望ましい。
備考	オンライン授業とする

授業科目名	災害時専門職連携演習 （災害 IP 演習） Disaster Inter-Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Exercise)	必修の区分	選択
授業コード	1109	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	後期（R6 年 2/27, 2/29, 3/1） 予定
授業種別	演習	授業方法	集中・集合演習（オンライン）
講師名	**酒井 郁子** 岩崎 寛 濱　侃 井出 成美 臼井 いづみ 孫　佳茹 （新任者）	所属	千葉大学大学院看護学研究院 千葉大学大学院園芸学研究院 千葉大学大学院園芸学研究院 千葉大学大学院看護学研究院 千葉大学大学院看護学研究院 千葉大学大学院看護学研究院 千葉大学大学院看護学研究院
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	idenaru@chiba-u.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】災害の種類及び局面に応じた被災者中心の専門職連携を実践できる能力を獲得する。 【到達目標】 ・専門職連携に関する理論や知見をもとに災害の種類及び局面ごとに必要となる IPW の類型を理解できる。 ・災害時専門職連携を行う際に必要となる態度およびコミュニケーションスキルを理解し実際に行うための自己の課題を明らかにできる。 ・災害時に必要となる多機関との交渉、自組織の連携実践の構築、運営を行う力および評価･改善する能力を理解しシミュレーションで実践できる。 ・災害のフェーズや局面に応じて、チームでの協働意思決定に際し、メンバーとして貢献できる。
講義内容・授業計画	【ねらい】災害の種類や局面に応じ、IPW（interprofessional work）が実践できるようになるための態度、知識、思考力、行動力を養う。発災から復旧・復興に至る過程で生じる様々な課題に対して、複数の専門分野の教員が協働指導のもと、複数の専門分野の大学院生がチームを組み、連携協働して成果を産出していく実践型授業により、専門職連携実践能力の向上をねらう。 【学習内容】災害の局面ごとにシミュレーション演習を行う。デブリーフィングにおいて教員、協力者からのフィードバックをもとに被災者中心の災害時専門職連携、災害支援時の自己の IP 実践能力をリフレクションして､所属組織やチームのパフォーマンス改善のための課題を明らかにする。 2/27 オリエンテーション、講義「土地条件と災害」、講義・演習「災害対策本部での意思決定」演習「災害対策本部におけるタイムラインに沿った意思決定シミュレーション演習」準備 2/29　演習「災害対策本部におけるタイムラインに沿った意思決定シミュレーション演習」講義「ワークショップと合意形成」、演習「ワークショップの企画」 3/1 講義・演習「住民との合意形成のワークショップの実施」、「コミュニティ再生プランの作成・住民説明資料の作成」全体デブリーフィング

テキスト	特になし
参考文献	平成27 年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書 市町村の災害時意思決定体制改善に向けて～情報伝達・共有型図上訓練と支援システム～ 市町村の災害時意思決定体制づくり．環境と消防 4（1）
成績評価	課題に取り組み、ワークシートを提出する 20% 演習への参加状況 タスクの達成状況とチームワークの評価 50% 最終レポート 30%
履修上の注意・履修要件	専門職連携実践論を合わせて履修しておくことが望ましい。
備考	

授業科目名	災害医療学 Disaster Medical Sciences	必修の区分	選択
授業コード	1110	開講年次	1・2・3
単位数	2　（15 回）	期別	集中
授業種別	講義	授業方法	対面授業、遠隔授業
講師名	**織方愛** **丸山嘉一・林宗博・** **安井清孝**　他（予定）	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	織方愛 a-ogata@redcross.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害医療活動に取り組むための医学的基礎素養と、多様な災害現場の災害医療体制の立ち上げに応用できる基礎的能力について学ぶ 【到達目標】 ・災害医療学と災害看護学との関連、活動上の連携について理解する ・災害の種類、災害サイクル、災害現場に伴う医療活動に必要な知識について説明できる ・災害医療コーデイネーターの役割について理解し、看護コーデイネーターのあり方を構築する ・災害時の外傷の病態や治療の基本について理解する ・被曝医療の病態や治療の基本、患者対応、看護のあり方について理解する ・災害関連死の背景と病態、予防対策について理解する
講義内容・授業計画	【ねらい】 既に有している災害医療活動に関する基礎的知識をさらに深め、災害医療活動の場面で、看護の視点からリーダーとして役割を行使できるように実践的能力を養う 【講義内容】 1）災害医療学の授業展開オリエンテーション、大規模災害の医療支援活動を通しての課題と対策 2）災害時における危機的疾患と救急外科的対応* 3）公衆衛生をグローバルな視点でとらえる～地域包括ケアシステムから～* 4）被災地における巡回診療による医療ニーズの発見と対応* 5）災害医療活動現場の特徴とその構造災害種類別の疾病構造* 6）災害に関連した疾病のメカニズム：避難生活との関連、避難所と仮設住宅の違い* 7）サイクル及び災害現場に伴う疾病構造医療対応である災害医療の 3T（START 方式、医療トリアージ、搬送トリアージ、シミュレーションによる優先度の検討）* 8）被災者及び災害関連死とは、法律上の意味、様々な災害の比較* 9）3T を支える CSCA の仕組み* 10）災害関連死の予防、看護・介護との連携* 11）災害医療にコーデイネーターの役割と課題* 12）被ばく医療の概念と基本、東日本大震災における活動、住民対応*

	13）シミュレーション：局所災害と大規模災害における CSCA3T* 14）急性期の被爆医療における看護の在り方* 15）まとめ
テキスト	特に指定しない。事前に授業関連の資料を配布する予定。
参考文献	・東日本大震災 石巻災害医療の全記録：石井正，ブルーバックス，2012. ・第 3 版 MIMMS 大事故災害への医療対応：MIMMS 日本委員会訳，永井書店、2013. ・基礎からわかる被曝医療ガイド:箱崎幸也等,日経メディカル開発,2011. ・低線量・内部被曝の危険性：編医療問題研究会，プライム，2011. ・東日本大震災 医療と介護に何が起こったのか／震災関連死を減らすために：上田耕蔵,萌文社,2012. ・東北関東大震災における関連死：坂総合病院にて講義 神戸協同病院上田耕蔵（ネット上公開： http://www.kobekyodo-hp.jp/images/material/shinsai_tohoku.pdf）
成績評価	授業前の事前学習課題提出物と授業内プレゼンテーション４％×15 回(60%)、最終レポート(40%)。全て期限を過ぎた場合は 20%の減点とする。
履修上の注意・履修要件	・３分の２以上の出席をもって単位認定要件とする。 ・オムニバス授業であるが、各授業内容の特性と共に、災害医療学の全体像を捉える。シミュレーションや演習に積極的に参加する。
備考	・災害医療活動に関連する実話の著書を数冊読破し、授業に臨む。 日頃から、災害について新聞やホームページ、ＴＶ等のメディアから、被害の大きさ、被災者、医療救護活動の実際について、情報を得ておく。 ・非常勤講師（*）については、開講年度によって変更する可能性あり。 また、講師の都合上、授業の曜日が変更することがある。

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	災害心理学 Disaster Psychology	必修の区分	選択
授業コード	1111	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	冨永 良喜	所属	元 兵庫県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	看護学科	連絡先	

講義目的及び到達目標	講義目的 災害後のストレス反応とトラウマ反応とストレス関連障害を学び、被災者と支援者を援助するための心理ケアとカウンセリングを学ぶ。 到達目標 1.災害後の被災者と支援者のストレス反応とストレス障害を修得すること。 2.災害後の被災者と支援者のストレスマネジメントを修得すること。 3.防災教育と心理ケアの融合を修得すること。
講義内容・授業計画	1．被災者のストレス反応とトラウマ反応とストレス関連障害；回復要因とリスク要因. 2．セルフケアとしてのリラクセーション；漸進性弛緩法・動作法・自律訓練法・ポジティブメッセージ 3．心理アセスメント； CAPS・IES-ｒ・心理教育のためのストレスチェック. 4．トラウマフォーカスト認知行動療法と認知のトライアングル 5．絆のワーク・積極的傾聴・共感. 6．支援者の二次的外傷性ストレスとトラウマ後成長 7．防災教育と心理ケアの統合 8．PFA（心理的応急法）と災害後の３段階モデル
テキスト	災害・事件後の子どもの心理支援（創元社）
参考文献	Tominaga,etal.2019 Secondary trauma and posttraumatic growth among mental health clinicians involved in disaster relief activities following the 2011 Tohoku earthquake and tsunami in Japan. Counselling Psychology Quarterly.
成績評価	レポート （80%）、積極的態度(20%)
履修上の注意・履修要件	
備考	教員研究者データベース Hp を参照のこと。

授業科目名	災害と文化 Disaster and Culture	必修の区分	選択
授業コード	1112	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義、フィールドワーク	授業方法	第 1～8 回：遠隔授業 （第 6～8 回は対面・集合でも受講可能）
講師名	**正木 治恵** 岩崎 寛 望月 由紀	所属	千葉大学大学院看護学研究院 千葉大学大学院園芸学研究院 東都大学幕張ﾋｭｰﾏﾝｹｱ学部
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	hmasaki@faculty.chiba-u.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】災害支援に必要な文化的視点を理解し、文化的感受性を高める。また、関連する概念や理論について概観すると共に、文化的アプローチについて実践例をもとに理解を深める。 【到達目標】災害支援に必要となる文化的視点と感受性が獲得できる。被災地域の文化を取り込んだケア、コミュニケーションができる。
講義内容・授業計画	オムニバス方式（正木治恵／３回、望月由紀／２回、岩崎寛／３回） 【遠隔授業】 １）災害看護における文化的ケアの基礎 ２）文化看護とケア ３）災害看護における文化の視点 ４）実践例をもとにした文化的ケアの方法(1) ５）実践例をもとにした文化的ケアの方法(2) 【遠隔授業（対面、集合でも可）】 ６）被災地域の風土や文化をツールとしてケアに取り込む方法 ７）コミュニケーションツールとしての植物を用いたワークの実践 ８）植物を通じた地域文化の体験
テキスト	なし
参考文献	正木担当回：Christie W. Kiefer 著、木下康仁訳：文化と看護のアクションリサーチ 保健医療への人類学的アプローチ、医学書院、2010 岩崎担当回：広井良典編：「環境と福祉」の統合、有斐閣、2008 望月担当回：マデリン M. レイニンガー：レイニンガー看護学、医学書院、1995
成績評価	クラス参加度とプレゼンテーション（30 点）、事前・事後レポート（70 点）を総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	岩崎担当回（第 7～8 回）で用いるハーブの栽培を各自で行います。
備考	第 6～8 回は対面・集合での受講も可とする。

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	災害社会福祉学 Disaster Social Welfare	必修の区分	選択
授業コード	1113	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔・集中
講師名	室﨑益輝	所属	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	事前にメールにて連絡	連絡先	c/o nakaie@cc.u-kochi.ac.jp

講義目的及び到達目標	災害の構造や特質を理解させたうえで､それによる被害軽減の方向や対策を、予防、応急、復興の減災サイクルに即して、具体的に理解させる。とくに、社会福祉、災害看護、生活保護等の分野については、その有るべき姿を減災との関わりで、深く理解させる。
講義内容・授業計画	（1）災害概論・・災害事例の考察を通して、災害の構造や特質を知る 1．災害の事例と分類 2．災害の構造と特質 （2）防災対策総論・・防災対策の戦略や体系の全体像を理解する 3．大災害に学ぶ防災の教訓 4．防災対策の基本フレーム 5．減災の考え方とその具体化 （3）防災対策各論・・災害種別、時系列別に対策のあり方を学ぶ 6．災害対応と社会福祉 7．応急対応と災害看護 8．復興対応と生活支援 （4）災害福祉論・・減災という視点から福祉のあり方を学ぶ 9．生命と生活を守る福祉 10．要援護者と災害福祉 11．生活復興と災害福祉 12．災害福祉と災害看護 13．災害福祉と関連法制度 （5）まとめ
テキスト	なし
参考文献	メディカ出版「災害の統合と実践③災害看護」
成績評価	レポートの提出
履修上の注意･履修要件	災害事例をよく学習しておくこと
備考	特になし

Class title	Professional Writing	Section	Required elective
Class code	207	Year of study	2
Credits	1	Semester	1
Class type	Lecture	Mode of instruction	Distance learning
Instructor	Hyeon Ju Lee, Ph.D.	Affiliation	University of Kochi
Office hours / location	Appointments upon request	Contact details	lee_hyeonju@cc.u-kochi.ac.jp
Class objectives and attainment targets	1) Students will gain deeper understanding of academic writing in English, particularly on how to write research papers and summaries such as abstracts. Students will gain skills to differentiate academic writing from everyday English expressions and put the skills to practice in written communication. 2) Students will gain the technical knowledge related to nursing research writing style, and the “Disaster Lexicology” (main technical terms in use in disaster/humanitarian field) and methodology.		
Class description	Writing is an essential element of academia. Particularly for those who are interested in global/international collaboration/career/engagement, it is essential to be well versed in professional/academic English. The demands for English writing has heightened in recent years due to increased use of electronic communication technology and increased necessity to engage internationally in academic activities by publishing and exchanging ideas in writing. Thus it is crucial for graduate/doctoral students to be fluent in academic English expressions to perform excellence in the field of global disaster nursing. This course offers the basic tools for creating well-versed expressions and critical thinking for formulating ideas for writing. The course includes lessons on the following topics: Week 1: Writing process (7 steps to writing) Week 2: Semantics, vocabulary, and phrases in academic English writing Week 3: Effective sentences and sentence structure Week 4: Syntax: Technical tools for writing (1) Week 5: Syntax: Technical tools for writing (2) Week 6: Understanding and writing paragraphs Week 7: Structure of a research paper (1) Week 8: Structure of a research paper (2) Week 9: How to write a research proposal (1) Week 10: How to write a research proposal (2) Week 11: Writing summary Week 12: Writing abstract, part 1 Week 13: Writing abstract, part 2 Week 14: How to prepare for professional presentation Week 15: Professional presentation		
Textbooks	1) Swales, J. and C. Feak. 2004. Academic Writing for Graduate Students. Michigan University Press; 2) Bailey. S. 2001. Academic Writing: A Handbook for International Students. London and New York: Routledge.		

Reference materials	1) Glenn and Grey. 2012. The Hodges Harbrace Handbook. International Edition. Heinle. 2) Roget's 21st Century Thesaurus, 3rd Edition. Princeton Language Institute. 3) Oxford Learner's Dictionary of Academic English.2014. Oxford University Press.
Grading	Assessments criteria: weekly assignments and in-class tasks; attendance
Cautions and prerequisites	Students are required to know how to write sentences in English. Students are expected to know how to type in English in order to participate in-class discussion and complete assignments. All assignments must be submitted by specified deadlines. **No late submissions are accepted**.
Notes	Course materials and contents are open to changes. The language of instruction for this class is English with some Japanese explanations, when necessary.

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	Proposal writing (Research proposal writing skill)	必修の区分	選択必修
授業コード	1115	開講年次	1-3
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	近藤暁子 1) Ann Eckhardt 2)	所属	1) 東京医科歯科大学 2) University of Texas at Arlington
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	akondo.ind@tmd.ac.jp

講義目的及び到達目標

諸外国で広く活用されている看護研究方法について、英語を用いた授業を行い、研究計画書の書き方とともに、国際的に活躍できる、プレゼンテーション力・コミュニケーション力を修得する。また、国際共同研究計画案の能力開発を目指し、国際的に価値がある高度な研究能力の修得を目指す。

１）国際的に応用可能な看護研究プロセスに関連した以下の事柄について理解することができる。
(1) 国際的な視点に基づいた看護課題を抽出でき、これを看護研究問題として明確に説明できる。
(2) 諸外国の国際共同研究について、その意義、全体計画、わが国の研究者の担う役割等の分析を行う。また関連文献について批判的な視点を持ってレビューすることができる。
(3) 看護研究問題に関連する看護の理論や概念について理解を深め、自らの研究テーマについて理論的、実践・社会的位置づけと意義を明確にすることができる。
２）看護研究の計画書を、英語を用いて記述するための具体的な方法を習得できる。
３）看護研究の計画書を、英語を用いてプレゼンテーション、投稿するための技術と能力を取得できる。

講義内容・授業計画

回	月日	内容	
1	10/3 (10:30-12:00)	オリエンテーション、 英語プレゼンの行い方	近藤暁子
2	10/17 (8：50-10:20)	Proposal の書き方	近藤暁子
3	10/17 (10:30-12:00)	Proposalの例、 サブストラクション	近藤暁子
4	10/24 (10:30-12:00)	大学院生の研究計画の例	近藤暁子 （華セイ）
5	10/31 (10:30-12:00)	英文論文の書き方、投稿時のポイント 投稿した論文の例	近藤暁子
6	11/7 (10:30-12:00)	クリティークする英語論文の検討 選んだ論文の概要についてプレゼン	近藤暁子
7	11/14 (8：50-10：20)	国際看護研究論文のクリティーク (1)	近藤暁子
8	11/14 (10:30-12:00)	国際看護研究論文のクリティーク (2)	近藤暁子
9	11/21 (8：50-10：20)	国際看護研究論文のクリティーク (3)	近藤暁子
10	11/21 (10:30-12:00)	国際看護研究論文のクリティーク (4)	近藤暁子
11	12/5 (10:30-12:00)	研究テーマの選定、背景、目的と意義	近藤暁子

	12	12/12 (10:30-12:00)	理論的枠組み、用語の定義、デザイン、対象、データ収集方法	近藤暁子
	13	12/19 (10:30-12:00)	分析方法、倫理的配慮、研究の限界	近藤暁子
	14	1/16 (11:00-12:30)	Another example of outstanding proposals and research products	Ann Eckhardt
	15	1/23 (11:00-12:30)	研究計画書について最終プレゼンテーション	近藤暁子 Ann Eckhardt

テキスト	使用しない
参考文献	・Denise F. Polit & Cheryl T. Beck, Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice (English Edition) 10th Edition, Lippincott Williams & Wilkins, 2016 ・エリザベス・M.トーンキスト（著), 園城寺康子他（訳）論文を英語で書く, 医学書院, 2007
成績評価	各学生の学習プロセス・プレゼンテーション・討論および作成した研究計画書に基づいて行う。 参加度・学習プロセス　20% プレゼンテーション・討論　40% 研究計画書　40% 研究計画書は実際行うテーマで書くことが望ましいが、テーマが決まっていない場合は仮の計画書を作成する。ただし、文献レビューの計画書は除く。
履修上の注意・履修要件	基本的にすべて英語・ZOOMで実施する。
備考	14-15回目は米国の講師による講義、ディスカッションを行う。 14回目はオープンセミナーとする。

2023 年度不開講
（2022 年度シラバス）

授業科目名	Program Writing (Program proposal writing skill)	必修の区分	選択
授業コード	1116	開講年次	1・2・3
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	茅野龍馬 増野園惠	所属	WHO 健康開発総合研究センター 兵庫県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 多くの組織で、新しく革新的なプログラムは、十分に練られた提案書を必要とする正式なプロセスを経て開発される。実践の改善や発展に向けたプログラムの開発のためには、提案書作成の知識やスキルを有することが必須となる。 本科目では、ＷＨＯの健康危機管理枠組みや健康危機管理分野の研究推進の取り組み等を実際例にしながら、プログラム開発および優れた提案書作成に必要な事項を理解し、そのスキルを獲得することを目的とする。 【到達目標】 1. ＷＨＯ健康危機管理枠組みと健康危機管理分野における研究ガイド作成プロジェクトの関連および開発のプロセスを説明できる。 2. プログラム開発に提案書（プロポーザル）の役割を説明できる 3. 提案書の必須項目、優れた提案書に必要な要点を列挙できる 4. 特定の課題についてのプロポーザル案を作成する
講義内容・授業計画	本科目は、講義（グループ討議を含む）と課題学習および学生によるプレゼンテーションと討議によって進める。 1. オリエンテーションと導入（増野） 2. 提案書とは何か（増野） 3. 提案書の実際（増野） 4. WHO における健康危機管理対応とその構造（茅野） 5. WHO 健康危機管理枠組（茅野） 6. WHO Guidance on Research Methods for Health Emergency and Disaster Risk Management の概要（茅野） 7. Guidance 開発プロジェクト（茅野） 8. Guidance の普及に関するプロジェクト（茅野） 9. 各プロジェクト実施のプロセスと要点（茅野） 10. 提案書の作成：テーマと提出先の決定（増野） 11. 提案書の作成：課題の分析（増野） 12. 提案書の作成：提案書作成に必要な情報収集（増野） 13. 提案書の作成：提案書の各項目の検討（増野） 14. 提案書の作成：予算について（増野） 15. 提案書のプレゼンテーション（増野）
テキスト	特になし
参考文献	• WHO. Health Emergency and Disaster Risk Management Framework, 2019 https://www.who.int/hac/techguidance/preparedness/health-emergency-and-

	disaster-risk-management-framework-eng.pdf ♦ WHO, WHO Guidance on Research Methods for Health Emergency and Disaster Risk Management, 2021, https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/345591/9789240032286-eng.pdf
成績評価	グループ討議への参加・発言、課題学習の成果とプレゼンテーションにより総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	

授業科目名	災害看護グローバルコーディネーション論	必修の区分	選択
授業コード	2206	開講年次	2
単位数	2　(15 回)	期別	集中
授業種別	講義	授業方法	対面授業、遠隔授業
講師名	**織方愛**・野口眞貴子　　他	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	織方愛 a-ogata@redcross.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 複合災害時を含む国際救援活動を展開する際に不可欠となる諸条約（国際人道法、難民条約、国際災害対応法など)、赤十字・国際 NGO の行動規範、スフィア・プロジェクトなど必要な知識・技術を学ぶ。また、災害時に活躍する国連機関、国際赤十字、国際 NGO など国際諸機関のポリシー・システム、ツールについて掌握し、被災状況の査定、並びに他チーム・被災地の行政や住民代表等とのコーディネーションについて学ぶ。 【到達目標】 ・災害救援に関わる国際機関のシステムについて知る ・危機管理について理解する ・国際救援活動の基盤となっている枠組み（諸条約、行動規範、救援の最低基準など）について理解する ・国際救援活動の主要なアクターの活動内容・特色などを検討し、救援に際し、各機関・組織との連携・協働について考えることができる。 ・他チーム・被災の行政や住民代表との調整・交渉に必要なスキルについて検討できる
講義内容・授業計画	【講義内容】 国際救援活動の主要なアクターである国連機関、国際赤十字運動、国際 NGOs の概要について学ぶ。被災者や難民に関する諸条約、救援者に関する行動規範や救援活動の原則、救護と開発の Continuum について考える。 また、活動に必要な法規、規範を実際の活動の中で、どのように活用するのかについて学びを深める。国際救援において活動するシステム、情報収集・分析などのツールなどについて検討し、実体験に基づく話により、それら知識の定着を図る。また、ストレス下における交渉の手法、危機管理上考えておくべき事項について考え、災害救援におけるグローバルコーディネーターの役割について学ぶ。 【授業計画】 1）オリエンテーション、災害看護とグローバルコーディネーション概説 大規模災害対応における Inter-agency Perspectives* 2）国連機関と災害(OCHA, UNICEF, UNHCR, WFP, UNISDR ほか)* 3）国際赤十字運動(ICRC, NSs, IFRC)及び国際 NGOs (MSF, CARE, World Vision, Save the Children ほか)と災害* 4）国際人道法・人権法* 5）国際赤十字の行動規範・クラスターアプローチ* 6）赤十字の緊急救援* 7）赤十字の健康問題に対する取り組み（歴史的変遷：アルマアタ宣言～

	SDGs）* 8）振り返り、ディスカッション* 9）赤十字の開発協力* 10）国際要員に求められるコンピテンシーと安全管理* 11）JICA プロジェクトにおけるリーダーとは 12）13） UN/赤十字/国際 NGO での活動の実際から学ぶ（災害救援のリーダーとは）* 14）振り返り、ディスカッション* 15）まとめ*
テキスト	特に指定しない
参考文献	・Effective Negotiation and Influencing, Persuasive Negotiation,危機管理等の各種文献 ・赤十字国際機関（ICRC/IFRC/日本赤十字社)、国連機関（UNHCR, UNICEF, WHO, OCHA）等、国際 NGO（OXFAM, Save the Children, MSF 等）関連 Web サイト ・人道憲章、国際人道法、世界人権宣言、難民条約等、関連 Web サイト ・Alma Baccino- Astrada: Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflicts, 1982 ・Sphere Handbook, 2018 https://spherestandards.org/wp-content/uploads/Sphere-Handbook-2018-EN.pdf ・The Journal of Humanitarian Studies, Vol.1-IV, 2011-2015
成績評価	授業前の事前学習課題提出物と授業内プレゼンテーション４％×15 回(60%)、特別講義振り返りレポート(20%)、最終レポート(20%)。全て期限を過ぎた場合は 20%の減点とする。
履修上の注意・履修要件	・３分の２以上の出席をもって単位認定要件とする。 ・学生が各担当箇所についてのプレゼンテーションを行い、担当教員が補足し、さらに討議を行うので、事前学習を前提とする。トピックにより特別講師による講義を行う場合がある。各特別講義後は振り返りレポートを課す。
備考	各自の担当ヵ所については、事前に割り当てを行うこととする。 講義の順序は、特別講師の都合により変更することがある。

授業科目名	災害看護リーダシップ・ 管理論 Disaster Nursing Management	必修の区分	選択
授業コード	2207	開講年次	2
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	木下真里、山田覚	所属	高知県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	kinoshita@cc.u-kochi.ac.jp yamada@cc.u-kochi.ac.jp

講義目的及び到達目標	【目的】災害看護グローバルリーダーとしての視点から、災害対応システムを理解し、多職種連携や被災直後の被災者の健康と生活の確保、および復旧・復興に向け、管理・指揮のあり方について学ぶ。 【目標】被災者の健康と生活の確保、発災前から復旧・復興までの災害対応システムの検討ができ、保健医療における業務継続計画などの提案ができる。
講義内容・授業計画	災害看護グローバルリーダーとしての視点から、IPW（多職種の連携・協同）の重要性や、災害対応システムを理解し、被災直後の被災者の健康と生活の確保、および復旧・復興に向け、ヒト、モノ、カネ、情報等のマネージメント資源を如何に活用して行くか、管理・指揮のあり方について学ぶ。 (オムニバス方式/全 15 回) （木下真里/5 回） 災害時の看護職の役割、災害時リーダシップの形態と特性（インシデント・コマンドシステムと参加型ソーシャルキャピタルの醸成）、災害時に求められる円滑なコミュニケーションスキル（コマンド・アンド・コントロールおよびコーチング）を学ぶ。 （山田覚/8 回） 災害看護リーダシップ・管理論概論、災害看護グローバルリーダー、IPW とチームビルディング、マネージメント論、リスクコミュニケーションの基礎と災害時実践への応用 (木下真里 2 回) 実際の国内外の事例を用いて、災害時の課題を分析した後、管理・指揮のあり方について検討し、アクションプランを作成する。
テキスト	必要な資料は、講義時に配付する
参考文献	・林春男、危機対応標準化研究会、世界に通じる危機対応―ISO22320:2011(JIS Q22320:2013)社会セキュリティ - 緊急事態管理 - 危機対応に関する要求事項解説、日本規格協会 ・林春男、田村圭子、井ノ口宗成、牧紀男、 組織の危機管理入門―リスクにどう立ち向えばいいのか、丸善
成績評価	クラス参加度、レポート等を総合的に評価する
履修上の注意･履修要件	講義ばかりではなく、討議も重視する。
備考	特になし

授業科目名	災害看護倫理 Ethics in Disaster Nursing	必修の区分	選択
授業コード	2208	開講年次	2
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	増野園惠	所属	兵庫県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害に関連して生ずる倫理的課題について現状を理解し、状況から生ずる人々の体験を理解する。人の安全保障の理念に基づき、看護がどう対応すべきかを思索する。 【到達目標】 1. 災害に関連してどのような倫理的課題が生じるか、またその課題の議論すべき点を説明できる。 2. 災害時に遭遇する人々の置かれている状況で、人の安全保障に基づき看護者としてどのように行動すべきかについて自らの意見を述べることができる。
講義内容・授業計画	【講義内容】この授業においては、看護者として、看護研究者として災害に遭遇した人々の体験やその事態を理解する倫理的感受性を刺激し、倫理的に思考し、実践することを支援することを狙っている。そのため、授業展開は、討議セミナーの形式をとり、それぞれの事前学習を基盤としてクラスで討議を進める形式とする。 【授業計画】 １． オリエンテーション ：看護倫理についての基本原則のレビューと要点の整理 ２． 非日常時の倫理や法律 ３． 支援する際の文化と倫理観 ４． 災害に関連した倫理的課題(1) ５． 災害に関連した倫理的課題(2) ６． 災害看護に関連し倫理的課題と感じている事象 ７． 各自の焦点領域における倫理的現象(1) ８． 各自の焦点領域における倫理的現象(2)
テキスト	Fry, TS and Johnstone, M-J. International Council of Nurses Ethics in Nursing Practice 3rded.(Chapter 10.)Blackwell, 2008. （サラ T. フライ他／片田範子・山本あい子訳. 看護実践の倫理　第 3 版，日本看護協会出版会，2010） WHO. Ethics in epidemics, emergencies and disasters: research, surveillance and patient care, Training manual, WHO, 2015.
参考文献	Davis AJ. Ethics needed for disasters: before, during, and after, HEDN, 1, 11-18, 2014. Veenema, TG, Disaster Nursing and Emergency Preparedness for Chemical, Biological, and radiological Terrorism and Other Hazards, Forth Edition, Springer Publication, 2018.

成績評価	授業中のプレゼンテーション、レポートによる総合評価
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	特になし

授業科目名	災害看護理論構築 Building Disaster Nursing Theory	必修の区分	選択
授業コード	3209	開講年次	3
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義(クラス討議含む)	授業方法	遠隔授業
講師名	増野　園惠	所属	兵庫県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害看護に必要な理論は何かについて探求し、自ら気になる現象を理論化する方法を思索することを目的とする。 【到達目標】 1. 災害に関連して人々の体験や環境で生じている現象について、語ることができる。 2. 理論分析する方法を学び、その構造をクリティカルに分析できる。 3. 現象描写や研究過程で用いる概念の明確さを確保するための概念分析ができる。
講義内容・授業計画	【講義内容】 看護学の哲学的、理論的、概念的基盤の理解を通し、災害看護実践における重要な現象を捉え、現象の理解と災害看護実践を発展させる概念／理論構築に取り組む。 【授業計画】 1. オリエンテーションと導入 ：看護学／災害看護学における理論と実践、研究 2. 看護学における知識の構造 3. 看護学における理論構築の歴史 4. 理論の評価 5. 理論評価の実際(1) 6. 理論評価の実際(2) 7. 概念／理論の構築(1) 8. 概念／理論の構築(2) 9. 概念／理論構築の具体例 10. 災害看護の実践と関連する理論(1) 11. 災害看護の実践と関連する理論(2) 12. 災害看護学の理論構築：関心のある災害看護現象／概念 13. 理論構築を試みる(1) 14. 理論構築を試みる(2) 15. 理論構築を試みる(3)
テキスト	Meleis, AI (2017). Theoretical Nursing: Development and Progress Sixth Edition, Wolters Kluwer,　ISBN/ISSN 9780060000424
参考文献	Fawcett, J./太田喜久子・筒井真優美（2008）フォーセット看護理論の分析と評価（新訂版），医学書院 アン・マリナー・トメイ，マーサ・レイラ・アリグッド／都留伸子（監訳）（2004）看護理論家とその業績第３版，医学書院

	・その他の参考文献については授業の際に提示する。
成績評価	事前準備内容、プレゼンテーション、授業内討議、
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	授業は学生によるプレゼンテーションと討議により行う。

授業科目名	インターンシップⅠ Internship Ⅰ	必修の区分	選択
授業コード	1210	開講年次	1・2・3・4・5
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	通年
授業種別	講義	授業方法	実習
講師名	木下真里 増野園惠・梅田麻希 佐々木吉子・今津陽子 宮﨑美砂子・佐藤奈保 野口眞貴子・織方愛	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	上記教員のメールアドレス

講義目的及び到達目標	【目的】 身近な災害に関連する実践現場に身を置き、災害看護の視点から具体的実践スキルとともに研究的な視点を養う 【到達目標】 ・個人・家族・地域社会における災害看護の役割が理解できる。 ・災害看護の立場から、現場にある課題に関して議論することができる ・現場の中にある災害看護について自分の考えをもつことができる ・現場の中にある看護課題を選び、分析・評価ができる。 ・取り組んだ課題に対して、具体的な解決案として現場のステイクホルダーに説明することができる
講義内容・授業計画	【履修時の進め方】 避難所、病院の備え、行政や医療機関、住民組織など、「個人・家族・地域社会の健康」に焦点を当て活動できる場を選択する。 （履修の手順） ・学生は、取り組みたい課題について、アドバイザー教員と相談し、その課題達成に適するインターンシップ実施機関および指導教員（原則、本籍大学の専任教員）を決める。 ・インターンシップ計画書（学習目標・学習内容・学習スケジュール等を含む）を作成し、その内容について指導教員および本籍大学以外の教員、受け入れ先の担当者から助言・指導を受ける。 ・インターンシップ実施中には、受け入れ先の担当者および指導教員から指導を受け、5 大学共同の活動報告・発表会で本籍大学以外の教員からの指導・助言を受ける。 ・インターンシップ終了後速やかに、報告書を作成し、担当教員、受け入れ先が確認したものを教育課程運営委員会に提出する。
テキスト	特に用いない
参考文献	適宜紹介する
成績評価	活動記録と最終レポート、活動報告・発表会
履修上の注意・履修要件	受け入れ先によっては、調整に時間を要することがあるので、早めに内容を検討し、選定すること。各大学の指定する安全管理に努めること。

備考	・インターンシップ計画書を作成し、指導教員の確認・了解を得た後、教育課程運営委員会に提出してください。 ・本科目履修中には、インターンシップ活動報告・発表会で活動を報告・発表してください。 ・最終レポートは、A4サイズで5ページを上限としてまとめてください。

授業科目名	インターンシップⅡ InternshipⅡ	必修の区分	選択
授業コード	1211	開講年次	1・2・3・4・5
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	通年
授業種別	講義	授業方法	実習
講師名	木下真里 増野園惠・梅田麻希 佐々木吉子・今津陽子 宮﨑美砂子・佐藤奈保 野口眞貴子・織方愛	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	上記教員のメールアドレス

講義目的及び到達目標	【目的】 これまでの学びを活用し、知識、技術、態度の統合、グローバルリーダーの視点から具体的実践スキルとともに研究的な視点を養う。 【到達目標】 ・グローバル社会における災害看護の役割が理解できる ・看護の立場から減災のための課題解決に向けた議論をすることができる ・グローバルリーダーの必要性と役割について、自分の考えを持てる ・実践におけるグローバルな課題の分析・検討ができる ・取り組んだ課題に対する具体的な解決案・施策を説明できる
講義内容・授業計画	【履修時の進め方】 災害看護に関連する国際的かつ学際的な活動を行う組織、機関を選定し、文化や規範を尊重しつつ、現場のリーダーのもとでその実際を学び、スーパビションを受けながら主体的に実習を行う。 （履修の手順） ・学生は、取り組みたい課題について、アドバイザー教員と相談し、その課題達成に適するインターンシップⅡ実施機関および指導教員（原則、本籍大学の専任教員）を決める。 ・インターンシップⅡ実施機関と連絡・交渉を行い、受け入れ可能性と必要な手続きを確認する。 ・インターンシップⅡ計画書（学習目標・学習内容・学習スケジュール等を含む） を作成し、その内容について指導教員および本籍大学以外の教員、受け入れ先 の担当者から助言・指導を受ける。 ・インターンシップⅡ実施中には、受け入れ先の担当者および指導教員から指導を受ける。 ・5 大学共同活動報告・発表会において本籍大学以外の教員からの指導・助言を受ける。
テキスト	特に指定しない。
参考文献	適宜紹介する
成績評価	・最終レポート：インターンシップⅡ開始までのプロセス・計画書・活動記録及び学習成果をまとめた活動記録 ・5 大学合同で開催する活動報告・発表会

履修上の注意・履修要件	受け入れ先によっては、調整に時間を要することがあるので、早めに内容を検討し、選定すること。
備考	・インターンシップⅡ計画書を作成し、指導教員の確認・了解を得た後、5 大学共同教育課程運営委員会に提出する。 ・インターンシップⅡ終了後は、速やかに報告書を作成し、担当教員、受け入れ先が確認したものを教育課程運営委員会に提出する。 ・最終レポートは、A4 サイズで 5 ページを上限としてまとめてください。

授業科目名	災害看護ゼミナールA	必修の区分	選択
授業コード	3101	開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	木下真里	所属	高知県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	kinoshita@cc.u-koch.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 学生が、自らの関心を持つ災害看護現象について、文献検討、フィールドワーク等の方法を用いて情報収集し、それらを分析することにより、災害看護学の理解を深めるとともに、課題を抽出し整理する。 【到達目標】 関心を持つ災害看護現象について種々の情報を収集することができる。それらを分析することにより、災害看護学の理解を深め、課題を抽出・整理することができる。
講義内容・授業計画	【第1回】 オリエンテーション､関心を持つ災害看護現象についてブレーンストーミング 【第2、3、4、5回】 文献検討、フィールドワーク等による情報収集 【第6、7、8、9回】 文献検討、フィールドワーク等により得た情報の分析 【第10、11、12、13回】 災害看護における課題の整理と対策の検討 【第14、15回】 課題に関するプレゼンと議論
テキスト	特になし
参考文献	適宜紹介する
成績評価	クラスの参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意･履修要件	なし
備考	特に地域防災力､看護システム､グローバルな課題の視点から検討する。

授業科目名	災害看護ゼミナールB Disaster Nursing Seminar B	必修の区分	選択
授業コード	1302	開講年次	1・2・3
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	増野園惠	所属	兵庫県立大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント	連絡先	sonoe_mashino@cnas.u-hyogo.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 エビデンスに基づく災害看護実践を推進する能力の修得を目指し、災害看護領域の優先的な研究課題を特定し、科学的手法を用いて課題を探究し、エビデンスを創出する手法を学ぶ。 【到達目標】 1. 災害看護領域の優先的な研究課題を特定し、説明できる。 2. 代表的なレビュー手法について、それぞれの特徴、レビューの進め方、適用を説明できる 3. 災害看護分野の研究・実践上の重要課題に関するレビューのための適切な疑問を設定し、検索のストラテジーを説明できる。 4. 選択した課題について、文献レビューを行い、関連知識および先行研究を整理し、説明できる。 本科目の最終成果として、文献レビューを１編まとめる。
講義内容・授業計画	【講義内容】 看護学研究の基本を踏まえ、災害看護領域の研究課題とその探究方法について、災害健康危機管理に係る研究的取り組みの最新知見との関連から検討する。研究レビューの基本的アプローチを学習し、各学生が関心を持つ課題を取り上げて、その課題に関連する研究的動向、最新知見をレビューし、災害・健康危機管理および災害看護実践の向上に必要な喫緊の研究課題について議論する。 【授業計画】 1. オリエンテーションと導入 2. 災害看護および災害健康危機管理に係る研究の動向・研究の役割 3. Research Gap と優先度の高い研究課題 4. 研究課題の発見と焦点化 5. 研究疑問の明確化 6. 文献レビューの目的と代表的な手法（概観） 7. Systematic Review(1) 8. Systematic Review(2) 9. Scoping／Mapping Review(1) 10. Scoping／Mapping Review(2) 11. Meta-syntheses (1) 12. Meta-syntheses (2) 13. 文献検索の戦略 14. 文献／知見のまとめ 15. レビュー報告

テキスト	指定なし
参考文献	・ Grant MJ, Booth A. A typology of reviews: an analysis of 14 review types and associated methodologies. Health Information and Libraries Journal. 2009; 26(2):91-108. ・ Aromataris E, Munn Z (Editors). Joanna Briggs Institute Reviewer's Manual. The Joanna Briggs Institute, 2017. Available from https://reviewersmanual.joannabriggs.org/ ・ Holly, C., Salmond,S., Saimbert, M. Comprehensive Systematic Review for Advance Practice Nursing 2nd Ed., Springer. 2017.
成績評価	プレゼンテーション 30%、クラスでの発言 20%、最終レポート 50%で総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	参考 Web サイト ①Temple University Libraries https://guides.temple.edu/systematicreviews/systematicreviewservice ②utmb Health, Moody Medical Library: Systematic Review: Overview https://guides.utmb.edu/sr ③Cochrane Training https://training.cochrane.org/

授業科目名	災害看護ゼミナールC Disaster nursing seminar	必修の区分	選択
授業コード	1303	開講年次	1-3
単位数	2	期別	通年
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業および対面授業
講師名	佐々木吉子、今津陽子	所属	東京医科歯科大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp

講義目的及び到達目標	【授業目的】 首都直下地震発生時の帰宅困難者対応について、自治体（東京都、区市町村）や近隣企業の防災担当者と共同しながら対応力向上をはかる活動への参加を通して、災害看護グローバルリーダーとしての役割を学ぶ。 【到達目標】 1. 大災害時の人々の暮らしや健康への影響、および保健医療専門職の対応課題について理解する。 2. 大災害時の減災のために、帰宅困難者対策として平時より取り組むことのできることを探求し、関係者との協議に参加できる。 3. 災害看護グローバルリーダーの視点に立ち、訓練や指導の計画立案・実施に携わり、活動について評価することができる。
講義内容・授業計画	【授業内容】 【第 1 回】（佐々木、今津） ・オリエンテーション、テーマ確認とプランニング 【第 2-14 回】（佐々木、今津） ・帰宅困難者対応を行う予定の人々の準備性、支援ニーズを理解し、対応力を向上するための方法について検討する。 ・関係者（自治体、近隣企業の防災担当者）とのミーティングに参加し、意見を述べる（対面および遠隔）。 ・訓練（シミュレーション）の企画、教材、道具、シナリオの作成を行う。 ・訓練の実施に主体的に関わり、ファシリテーターを担う。 ・訓練の評価を行う。 【第 15 回】（佐々木・今津） ・最終ディスカッション
テキスト	指定しない
参考文献	適宜紹介する
成績評価	授業への参加姿勢 40%、プレゼンテーション 30%、事後課題レポート 30%
履修上の注意・履修要件	事前課題がある場合、指定された期限までに LMS に提出する。
備考	授業の内容・スケジュールは変更になることがある。

授業科目名	災害看護ゼミナールD Disaster Nursing Seminar D	必修の区分	選択
授業コード	1304	開講年次	1・2・3
単位数	講義	期別	対面・遠隔授業
授業種別	講義	授業方法	対面・遠隔授業
講師名	**宮﨑 美砂子** 佐藤 奈保	所属	千葉大学大学院看護学研究院
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	miyamisa@faculty.chiba-u.jp naho.sato@faculty.chiba-u.jp

講義目的及び到達目標	【目的】災害看護グルーバルリーダーは、被災地において、外部支援者として地域の回復・発展の推進にかかわる。地域の人々や関係者が主体的に問題にかかわり、活動を企画・実施し、体制構築ができるよう支援する立場にある。本科目では、地域社会と研究者の協働による研究推進方法として、CBPR(Community-Based Participatory Research)を学ぶ。基本テキスト及び関連文献を基に、ゼミ方式により授業を進める。これにより、地域社会との協働において、リーダーとして基本とすべき知識、技術、態度とは何かを論考する。 【到達目標】地域社会の課題に対する分析的なアセスメント技術、プログラム立案・政策形成、地域の人々との信頼関係の構築、文化的能力に関する技術、リーダーシップと組織運営に関する、一連の知識・技術・態度を理解する。
講義内容・授業計画	基本テキスト及び関連文献を基にしたゼミ形式で進める。 ●レポーターとなる受講生は、以下の準備、役割を担う。 ・基本テキストの単元を基に、その素材から導くことのできる地域社会との協働に関する支援者として求められる能力の特質について考察する。 ・討論に際して焦点をあてる事項を複数提示する。 ・授業で使用する資料は、原則として前週の金曜日 17 時までに教員・受講者に送付する。 ・当日の司会・運営を行う。 ●レポーター以外の受講生は、事前に資料に目を通して授業に臨む。 ※レポーターであるかを問わず、基本テキストの他に自分で関連資料を調べて追加する工夫を行う。 【1 回】オリエンテーション 【2 回～14 回】基本テキストの各単元を基に進める。 【15 回】全体統括
テキスト	Barbara A. Israel et al: Methods for Community-Based Participatory Research for Health. Jossey-Bass, 2ed,2012.
参考文献	必要に応じて提示する。
成績評価	プレゼンテーション、討議の内容・参加姿勢（40%）、最終レポート（60%）
履修上の注意・履修要件	特になし
備考	

授業科目名	災害看護ゼミナールE Disaster Nursing Seminar E	必修の区分	選択
授業コード	1305	開講年次	1・2・3
単位数	2	期別	2
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	野口眞貴子	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	アポイントメント（随時）	連絡先	野口眞貴子 m-noguchi@redcross.ac.jp

講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害看護実践のため、疫学の考え方や方法を用いて現状を把握、評価し、保健政策立案に結びつける力を養う。
講義内容・授業計画	【講義内容】 疫学的アプローチを実践的に学び、地域の健康問題を認識し、解決に向けるという科学的根拠にもとづいた保健政策について理解を深める。 【到達目標】 ・疫学的アプローチを理解し、実践活動に応用できる。 ・疫学的アプローチによる論理的思考を展開できる。 【授業計画】 1）授業ガイダンス 2）～6）フィールド疫学の基礎と応用＊ （テキスト、参考文献に基づき、一部、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う予定） 7）～11）疫学的アプローチを用いた事例検討(演習)＊ 12）～14）フィールド活動に関連した課題の提示、発表、フィードバック 15）まとめ
テキスト	木原正博・木原雅子訳：アドバンスト分析疫学 369 の図表で読み解く疫学的推論の論理と数理, メディカルサイエンスインターナショナル, 2020. 木原雅子訳：医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ第 4 版 ， メディカルサイエンスインターナショナル, 2014.
参考文献	岩田健太郎ほか訳：CDC のフィールド疫学マニュアル, メディカルサイエンスインターナショナル,2020. 中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学第 4 版, 医学書院,2020.
成績評価	授業参加度（40%）課題レポート（60%）
履修上の注意・履修要件	テキスト、参考文献図書の該当箇所を事前に自己学習のうえ、授業に参加してください。
備考	＊一部、特別講師による講義の予定。講師との調整により日程変更の可能性がある。

授業科目名	インデペンデントスタディ I・II・III・IV・V Independent Study I/II/III/IV/V	必修の区分	選択
授業コード	1306･1307･1308･1309･1310	開講年次	1・2・3・4・5
単位数	1	期別	前期もしくは後期
授業種別	演習	授業方法	演習
講師名	共同災害看護学専攻 専任教員　他	所属	構成 5 大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	事前アポイント	連絡先	Email

講義目的及び到達目標	【目的】 学生が関心をもつ災害看護領域において、実践あるいは研究を発展させていく上で必要となる知識・スキルの修得・強化をはかり、災害看護グローバルリーダーとしての能力を養う。 【到達目標】 学生の持つ課題によって、次の 1 つまたは複数が個別の到達目標となる。 1. 災害看護に関連する特定の関心分野についての知識を広げる 2. 災害看護領域における実践的課題を解決するために必要となる知識、スキルを開発または向上させる 災害看護領域における研究を発展させていく上で必要となる知識、スキルを開発または向上させる
講義内容・授業計画	【科目の概要】 この科目は、学生個々の関心と課題に基づき、学生自らが担当教員と相談の上で具体的な学習目標・学習内容・学習計画を立てて主体的に学習するものである。1 科目は 1 単位の学習とし、1 学期（前期又は後期）で終了する。1 学生につき、5 年間で最大 5 科目（5 単位）までの履修を可能とする。 【履修の手順】 1. インデペンデントスタディは、教育課程運営委員会で担当教員および科目の具体的内容についての確認を受けた後、履修登録を行い履修する。 2. 学生は､インデペンデントスタディとして取り組みたい課題について、アドバイザー教員と相談し、その課題の指導に適する担当教員を決める（担当教員は原則、共同災害看護学専攻の専任教員とする)。 3. 学生は、インデペンデントスタディ学習計画書（様式）（学習目標・学習内容・学習スケジュール等を含む）を作成し、その内容について担当教員の助言・指導を受ける。(1 科目分の学習計画書は 1 単位に相当する内容であること） 4. 学生と担当教員によって十分検討されたインデペンデント学習計画書は、アドバイザー教員が確認した後、教育課程運営委員会で報告、確認される。 【計画上の留意】 インデペンデントスタディは、共同災害看護学専攻で提供されている科目（必修・選択）の代替とはならない。提供科目でカバーされる内容と同じものをインデペンデントスタディとすることはできない。

テキスト	特定なし
参考文献	特定なし
成績評価	学習目標の到達度をもって成績を評価する。具体的な評価方法は、担当教員が科目開始前に定める。
履修上の注意・履修要件	インデペンデント学習計画書が教育課程運営委員会で確認された後に履修登録・履修が可能となる。 5 年間で最大 5 科目（5 単位）まで履修が可能。最初の履修科目は「インデペンデントスタディⅠ」となり、以降、複数のインデペンデントスタディを履修する場合は、「インデペンデントディⅡ」→「インデペンデントスタディⅢ」と順に科目を計画する。
備考	インデペンデントスタディは余裕をもって計画してください。 前期科目として登録する場合は前年度 3 月までに、後期科目として登録する場合は 9 月までに、教育課程運営委員会で確認を受けてください。

授業科目名	実践課題研究 Field　Research	必修の区分	必修
授業コード	2402	開講年次	2
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	通年
授業種別	演習	授業方法	対面、フィールドワーク
講師名	共同災害看護学専攻　専任教員	所属	構成 5 大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	事前アポイントメント	連絡先	本籍大学の専任教員

講義目的及び到達目標	【目的】これまでの学修を基に、関心をもった災害看護上の課題を取り上げ、その課題の探究のために必要な、情報の収集・分析、あるいは支援活動の計画・実施に基づき、検討資料を作成し、学際的な視点から評価、考察することができる能力を養う。 【到達目標】 ①災害状況を把握し、看護上の問題（課題）を明らかにして探究することができる。 ②収集した災害状況の情報を分析することができる。 ③災害状況のなかで「その人らしく健康に生きる」ための方策（支援活動計画）を立て、実践あるいは提言することができる。 ④課題についての情報の分析や支援活動の実施を研究レポートとしてまとめることができる。 なお、ここでいう「災害状況」には、防災・減災に関することも含み、「支援活動」には、病院や地域との連携の在り方など組織的な支援体制や組織づくり等も含む。
講義内容・授業計画	各学生の課題に沿って、主指導教員 1 名および副指導教員 4 名と計画を立てて実施する。
テキスト	学生のテーマに合わせて適宜紹介する。
参考文献	学生のテーマに合わせて適宜紹介する。
成績評価	プロセスならびに最終提出されたレポート内容にて、指導を担当する 5 大学の教員で評価を行う。
履修上の注意･履修要件	本籍大学の専任教員と取り上げる課題及び進め方についてよく相談した上で履修すること。
備考	実践課題研究の単位取得は、Preliminary Examination の受験要件の一つである。

授業科目名	災害看護研究デベロップメント Dissertation Research Proposal	必修の区分	必修
授業コード	3403	開講年次	3
単位数	各大学1単位（全5単位）	期別	前期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	木下真理 増野園惠・梅田麻希 佐々木吉子・今津陽子 宮﨑美砂子・佐藤奈保 野口眞貴子	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	上記教員メールアドレス

講義目的及び到達目標	【講義目的】 各自の博士論文作成に向け、研究計画立案のプロセスを本教育課程にかかわる教員ならびに学生との議論を通して進める。研究計画立案に際しては、十分な文献検討や事前の情報収集を行い、研究の意義や倫理的配慮について十分検討するとともに、教員や当該領域の専門家へ積極的に相談・助言を求め、実現可能性についても十分検討する。 【到達目標】 ・ＤＮＧＬとしての博士論文に求められる要件を理解できる。 ・災害看護の現象を研究課題として学際的あるいはグローバルな視点から絞り込んでいくプロセスを理解できる。 ・研究課題から適切な研究デザインを選び、新たな知やほかの学問領域の知を取り入れて、研究方法を決めていくことができる。 ・博士論文に向けた研究計画書のドラフトが作成できる。 ・学生と教員等との議論を通して、研究計画書案を洗練させていくことができる。
講義内容・授業計画	博士論文作成の要点となる事項については、遠隔授業により説明する。各学生の主指導教員1名、副指導教員4名を決定して、学生が主体的に研究計画のための学習計画を立てて実施する。(各指導教員の専門は、履修の手引きを参照する)。また、学生間および指導教員を交えて研究計画案を議論し、計画立案のプロセスを共有しながら進めていく。 【授業計画】 １） 履修ガイダンス（4月）評価基準の説明 ２） 研究計画書案の発表と討論①　（6月30日（金）3限） ３） 研究計画書案の発表と討論②　（9月1日（金）3限） ４） 研究計画書案の洗練（各学生と5名の指導教員間個別） ５） 合同検討会（10月27日（金）5限）
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて提示する
成績評価	授業への取り組み、発表会でのプレゼンテーションと討論、博士論文研究計画書のドラフト（提出期限：11月7日（火））の内容に基づいて、5大学の指導教員により評価を行う。
履修上の注意・履修要件	上記授業計画は、日程調整をして遠隔会議システムを通じて行うが、日程は変更になることがある。 学生主体で実施する。

備考	この科目が 3 年前期科目として置かれるのは、博士論文の作成への助走を支援するためである。博士論文作成の過程は、複数の指導教員等が継続的にかかわり研究を支援する体制をとるため、この科目では、学生が様々な教員から得る意見を自分の判断をもってまとめる訓練の一助ともなることをねらっている。

授業科目名	博士論文 Dissertation Research	必修の区分	必修
授業コード	3404	開講年次	3～5 年次
単位数	各大学 1 単位（全 5 単位）	期別	―
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業
講師名	木下真里・山田覚 増野園惠・梅田麻希 佐々木吉子・今津陽子 宮﨑美砂子・佐藤奈保 野口眞貴子	所属	高知県立大学 兵庫県立大学 東京医科歯科大学 千葉大学 日本赤十字看護大学
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・場所	随時アポイントメント	連絡先	各教員のメールアドレス

講義目的及び到達目標	【目的】 博士論文研究計画書および研究倫理審査結果に基づいて調査研究を行い、博士論文作成を通して、独り立ちして学術的な研究を行う能力を培う。特に、この科目では、データ収集とデータ分析のプロセス、およびそのプロセスにおいて必要となる倫理的な配慮について、研究指導教員の助言・指導を受けながら具体的に学修する。 【「博士論文」の評価の視点】 ① 研究目的を達成するための方法論が明確に示され、データ収集およびデータ分析の方法などが具体的に検討されている。 ② データ収集およびデータ分析のプロセスにおける倫理的配慮が十分に検討されている。 ③ データ収集およびデータ分析の過程において、信頼性や妥当性、あるいは信用性・真実性（trustworthiness）が確保されている。 ④ 研究結果が根拠に基づいて記述されている（記述されることが見込まれている）。 ⑤ 研究指導体制を構成している教員の能力を活用し、綿密にデータ収集とデータ分析のプロセスを踏むことができている。
講義内容・授業計画	♦ Qualifying Examination に合格した学生は、本科目の履修にあたって、以降の研究指導体制および博士論文で取り組む研究課題について、教育課程運営委員会に申請をし、承認を得る。承認を得た本専攻の専任教員である研究指導教員が本科目の担当教員となる。 ♦ Qualifying Examination で承認を得た研究計画に基づき、研究を主体的に進める。 ♦ 研究の実施ならびに論文作成過程において、学生は、Zoom 等を活用し、副指導教員からも十分な指導を受ける。
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて提示する
成績評価	博士論文指導体制のうち、専任教員である主研究指導教員 1 名と副研究指導教員 4 名が科目担当として評価の視点に基づいて評価する。
履修上の注意・履修要件	本科目の履修は、Qualifying Examination を終えていることを基本とする。学生は、Qualifying Examination に合格した後の期より、本科目の履修を登録する。
備考	「博士論文中間発表会」は、本科目の履修中もしくは履修後に開催する。開催の時期や助言を求めるために招く研究者・専門職者は、研究指導教員と話合い決定する。